

## 『自分で吟味しなさい』 コリント人への手紙第二13章1～10節 2016.9.11(聖日礼拝説教より)

『…いま私が肉にあって生きてるのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。』 ガラテヤ2:20

◆人生に必要な真理は、とても単純！イエス様が「幼子のようにならなければ…」と言われたように、本当の幸せは、神の知恵を素直に信じて従うことによる。

①まずは「本当に愛すること」。コリント教会ほどパウロを悩ませ苦しめた教会はない。紛争や不品行、陰口や批判…。パウロも私たちも、嫌な思いをさせられる人に対する時ほど、本当の愛が求められる！本物の愛は、何より神の深い愛を知り、イエス様の十字架の赦しと聖霊様の慰めを心に受けて、そしてその相手のために祈ること！『敵を愛し、迫害する者のために祈れ(マタイ 5:44)』。祈る時、示されることがある！誤解や早合点はないのか？その裁き、態度、言い方に行き過ぎはないか？それが、神の前の罪への戒めでなく、人間の問題になっていないか(⇒参照:「引き下がれサタン！あなたは神のことを思わず、人のことを思っている(マタイ 16:23)」)？教会と互いの品位を下げることになりはしないか？と。◆パウロは『今回は容赦しない(2節)』と言いつつも、コリントの信徒が『悪から離れ、正しく生き、徳が建てられること(7～10節)』をひたすら願った！神の愛と主にある赦しに支えられて、忍耐深い本物の愛で戒め、本当の平和を願い求めた！

②大切な真理は、第二に「正しい信仰に立つこと」。パウロは『信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、吟味せよ(5節)』と勧める。「正しく信じているか？」でなく「立っているか？」！つまり、争い・批判し・陰口を言うあなたがたは、神の御前に立っているのか？『あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを自分で認めないのでですか？(5節)』と。失われた羊の譬え話のように、あなたは、羊飼いの愛に守られた囲いの中か？敵(狼)の危険、闘い、不安だらけの囲いの外か？◆私たちは誰も羊のように弱い存在。神の願われる聖い姿からは遠く、霊的に感情的に自制が難しい。しかし「神の力のゆえに生き…キリストと共に生きている」！ここに、世にはない幸せへの確信がある。「真理に逆らっては何も出来ず、真理のためなら何でも出来る(8節)」。

★人を正しく戒め、和解と平和を作り出す神の子であるために、神の御前で、主イエス様と共に歩み、敵を愛して祈る一週間としたい！